

学校だより



# 平安

2月号

あったかハートで Hey! 安心!!

## 朝の登校指導から

副校長 丸山 友洋

日本海側では大雪警報が発令され、東京都心部でも雪が観測されるなど、厳しい寒さが続いておりますが、子どもたちは毎日元気に登校しております。

毎朝、何か特別なことがない限りは、校長と1日交代で門に立ってあいさつをしながら、児童の登校を見守っています。前任校では、児童支援専任という立場で、毎朝正門で「登校指導」を続けていました。一見、ただ「おはようございます」のあいさつをしているだけのようと思われる朝の見守り活動ですが、児童支援専任のころから、門に立つときに意識していることがあります。それは、「朝は、一人ひとりの子どものかお（表情）をみることから始まる」ということです。

1日の学校生活の中でも、子どもたちは様々な表情を見せてくれますが、中でも、朝登校してくる時の表情は、とても重要です。朝、いつもより元気に明るい笑顔で「おはようございます」とあいさつをしてくれる子どもを見ると、「昨日（あるいは今朝）何かいいことがあったのかな。楽しく学校に来られているようだな」とうれしくなります。時々「昨日こんなことがあったんだよ」「今、クラスで〇〇が流行っているんだよ」など話しかけてくれる子どももいて、その子の近況やクラスの様子などを知ることができます。下を向きながら不安そうな表情を浮かべて登校してくる子ども、涙を浮かべながら登校してくる子ども、いつもは登校班で登校してくるのに、後から遅れて登校してくる子どももいます。そのような場合は必ず声をかけ、話を聞いたり、担任や養護教諭、児童支援専任に情報を共有したりしています。内容によっては、ご家庭に連絡をすることもあります。

また、登校してくる子どもたちや保護者の方たちから「先生、〇〇さんが登校してくる途中で転んで、〇〇辺りで怪我をして泣いています」「通学路に割れたガラスの破片が散らばっていて、危ないです」などの子どもたちの安全に関わるような重要な情報が入ってくることもあります。そのような場合には、その情報をもとに、朝、職員室に待機している職員が即座に現場に駆け付けます。毎日こうしたことを繰り返すことによって、子どもたちの「異変」に気付ける可能性が高まったり、安全な登校の保障に繋がったりしていくと思います。

日々、子どもたちの心の中には様々な思いや願いが交錯しています。その全てをタイムリーに、完全解決に導くことは難しいとしても、一人ひとりの子どもが1日を気持ちよく始めることができるように、全教職員で、様々な角度から支援を続けていきたいと思っています。